

社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 歴史的風土部会

「明日香村における生活環境及び産業基盤の整備等に関する計画について」 各委員からの意見

標記計画（案）への同意について、歴史的風土部会の各委員に意見聴取を行い、「適当である」と議決されたが、計画実施にあたっての留意事項として、3名の委員より次の意見があった。

（部会長）

計画実施にあたり、以下の指摘事項にご留意いただけるとありがたいです。

・ IV-1 整備計画の基本理念

「明日香の価値はまさにこの歴史そのものであり、歴史愛好家だけでなく…」

→これからもっと多くの明日香ファンを作るという時に、明日香を訪れている方々を歴史愛好家と表現するのは違和感があるため、計画実施にあたっては、明日香を含めた古都のことを地道に愛し支えてきた方々に対する認識を改めて取り組むべきである。

・ IV-3-(1) ○明日香の歴史的価値についてストーリー性のある説明と展示の実現

「現地での説明も担う飛鳥の魅力を発信できる人材の発掘と育成を行う。」

→明日香の価値を若年層に伝えることを主眼に、多言語を踏まえた次世代型ガイドを想定した人材の育成を図るなどのガイドの世代交代を見据えた対応を盛り込んでどうか。

・ IV-3-(2) ○6次産業化の推進による稼げる農業の推進

「…農産物を周知する機会を創出するため、農産物直売所の整備を進める。」

→直売所の整備という記述は、従来型の施設を想定させるため、飲食機能などを含む複合施設を想定してもよいのではないか。

・ IV-3-(4) ○情報の一元化と総合窓口の充実、プログラムの充実等のおもてなしの向上

→おもてなしの向上という言葉は、内容とマッチしていないように見受けられる。利用者目線からみたワンストップサービスの提供というような内容でよいのではないか、また、長期滞在型に限定することはなく単純に滞在型とされてもよいのではないか。

- ・ IV-3-(4) ○宿泊施設等の誘致と夜間の滞在空間の創出
「…夜間の魅力的なイベントを開催するなど夜の滞在空間を創出する。」
→明日香らしい夜間の滞在の楽しみ方を志向すべきであり、明日香らしい夜間
景観の魅力創出というニュアンスでよいのではないのでしょうか。

- ・ VI 計画達成のための推進体制
「…国、県、明日香村が連携を図るとともに、古都飛鳥保存財団、明日香村地域振
興公社、飛鳥観光協会のほか、民間事業者、大学等の民間団体の果たす役割を
再整理した上で、行政も含めた連携・協働を推進…」
→この項目に目的としての世界遺産登録を想定して、各自の役割を明確にして
協力するというような新しい協働体制が築けるようなニュアンスを盛り込
めるとよいのではないか

(A 委員)

整備計画が着実に実行されることを期待します。

(B 臨時委員)

特段の異議はありませんが、「歴史展示の推進」と「観光交流の振興」に関して、
若干のコメントを以下に記します。

- ・ IV-2-(1) 国家基盤が推進された明日香の地にふさわしい歴史展示の推進
→国・県・明日香村が連携して、分散する「歴史文化資源」を総合的に目に見
えるかたちでつなぐ展示が必要だと思っています。ただし、地域全体を
ミュージアムとするいわゆる「エコミュージアム活動」は全国の自治体で
行われていますが、成功例は実は少ないのではないかと感じています。中
核となる施設を設定することが肝要かと思えます。世界遺産登録は、奈良
県・橿原市・桜井市と共同で目指すものですが、拠点をしぼっておかない
と、明日香の魅力がぼやけてしまうのではないかと少し危惧しています。

- 史跡の調査・発掘・整備は、国・県・明日香村の連携のもと、ぜひとも推進
していただきたいところですが、村域全体が遺跡の上にある明日香村におい
て、すべてを整備というわけにはいかないことは重々承知しております。た
だ、例えば、「飛鳥宮跡（伝飛鳥板蓋宮跡）」や「川原寺跡」は、研究が進展
したにも関わらず、40年前とほとんど変わっていません。「水落遺跡」など、
この夏うかがったら、草茫々で哀しいものがありました。困難は多いと思
いますが、「飛鳥宮跡苑池」の整備とともに、既存の史跡の維持や整備も行って
いただけたらと願います。

- ・ IV-2-(4) 国内外の来訪者が明日香らしさを体感できる観光交流の振興
→ 宿泊型・体験型の観光をぜひ推進していただきたい。明日香の魅力は1日で体験しつくすことはできないことを、東京での講座（首都圏での講座が効果的）などを利用して積極的にアピールし、新規の「明日香ファン」を獲得するだけでなく、滞在型のリピーターを増やすことが必要かと思えます。その点、星野リゾートによる計画に期待しています。インバウンドも大切ですが、個人的にはむしろ、国内の潜在的な需要を掘り起こす必要があるのではないかと考えています。

- ・ IV-3-(1) OVR・AR 技術やスマートフォンアプリなどを活用した展示の推進
→ 「VR・AR 技術やスマートフォンアプリなどを活用した展示の推進」については、私は懐疑的です。全国の多くの博物館等で、そうした機器導入の成れの果て、というか残骸をみることがあります。最新の技術を導入しても、それが常に最新の状態であるようバージョン・アップしつづけることは、財政的に大きな負担をとまいません。今次整備計画10年の間には、さまざまな新しい技術が開発されるかと思いますが、いたずらにそれらに飛びつくのはいかがなものかと思えます。

以 上